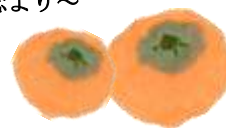


認知症介護は言葉遣いから始まる ～ともの家 介護理念より～

〒790-0101 松山市溝辺町甲 94

【Tel】 089-977-8502 【Fax】 089-907-8504

【E-mail】 tomo-home@triton.ocn.ne.jp 【Home Page】 <http://www.tomonoie.jp>



### シニア住宅パレットの開設

ともの家総合施設長（理事）永和淑子

松山神社の西側祝谷2丁目に、「元気で自立した高齢者が気の合った仲間同士で、プライバシーを守りつつ、不安や寂しさを解消し心身の衰えを支え合う終の棲家」として誕生したグループリビング・パレットがあります（平成18年2月開設）。これまで、「松山にグループリビングをつくる会」会員さんの協力を得て、多彩なゲストを迎えてのパレットサロンや「三原色のお絵描き教室」「切り絵を楽しむ会」等を開くなど、入居者の皆さんが自主運営されてきましたが、このたび種々の事情から、当法人に経営譲渡されました。今後、パレット誕生の趣旨を尊重しつつ、入居者の枠をもう少し広げ、要介護状態になっても何らかの支援を得て生活が継続できる体制を整えつつ、ともの家の理念「ノーマライゼーションの推進」をここでも図りたいと考えています。

10室（2DK6室。1DK4室。ともに浴室、トイレ、ミニキッチン、ベランダ付き）のうち5室が空いています。2DK（48.24㎡）では2人利用も可能です（1DKは29.74㎡）。広い食堂兼居間が2階にあり、そこで食事を共にし、サロンや趣味の活動を行っています。1階には大きい桐のテーブルがあり、ティータイムや読書を楽しめるコーナーがあります。お向かいには原循環器科内科医院があり24時間対応して下さい。パレットは準備ができ次第、職員を24時間配置して日常生活支援サービス、毎食の食事提供を行う住宅型有料老人ホーム「シニア住宅パレット」として届出します。見学、入居相談はいつでも受付けていますので、お気軽にお問い合わせください。

#### パレットサロンの予定（どなたでも出席自由です）

11月24日（土）13：30～15：00 玉井恭介さんと仲間の男性コーラス

12月22日（土）13：30～15：00 岳人山先生と愛媛大学邦楽部のみなさん

（尺八演奏）

## 敬老会

9月19日、敬老の日に合わせ、ともの家でも全事業所合同で敬老会を開きました。今年の長寿番付では99歳(男性)、98歳(男性)、97歳(女性)と、めでたく3名の方が横綱に選ばれました。横綱に選ばれた方には花束の贈呈もあり、皆で長寿のお祝いをしました。長寿番付表には表彰された方々以外にも多くの方の名前がのり、次期横綱候補者達が名を連ねました。長寿番付後は各事業所にわかれ、その事業所が歩んだ今年一年間の生活の様子をスクリーンを使って振り返り、出し物の披露へと移ります。トップバッターの溝辺ともの家は愛媛を舞台にした映画「書道ガールズ」からヒントを得て、利用者さんと職員が協力し「寿」という字を音楽に乗せ書き上げました。最後の一筆が決まると会場からは拍手が起こりました。



第二ともの家は日本昔話でも有名な「屁っぴり女房」の劇を披露しました。夫婦役を演じた職員の農民を意識したメイク、はじけた演技は会場の笑いを誘いました。



ともの家この道は「里の秋」や「紅葉」など、利用者さん達にも馴染みの深い童謡を中心としたイントロクイズ。回答後は用意された歌詞を見ながら皆で歌を歌いました。後半にはご家族の協力を得て「おいでや小唄」に合わせた踊りも披露し、会場を盛り上げて下さいました。

小規模多機能ホームともの家は利用者さんからも絶大な人気を誇る時代劇「水戸黄門」の劇を披露。主役、水戸黄門を演じるのは長寿番付で横綱にも選ばれた梅木敏一さん。他の利用者さん達も袴などの衣装に身を包み、しっかりと役をこなされていました。



アンジュールともの家は家族会代表中林さんが用意して下さいました狂言「佐渡狐」を披露。台詞が飛ぶというハプニングにも見舞われましたが、会場からの「頑張れ！」という声に励まされ、何とか無事披露し終えることが出来ました。

各事業所の出し物が終わると家族会による出し物が披露されます。「ありがとうございます」という字を崩し、「感謝」という文字を見事書き上げて下さいました。

会場には多くの笑顔がありました。利用者さんにとって充実した一日であったことを願います 取材：高市美紗(広報委員)





## 「梅木敏一さん おめでとうございます」

小規模多機能ホームともの家 主任 古川晃

先日、梅木敏一さんの100歳を祝して、愛媛県がお祝いをして下さいました。梅木さんは涙を流され、賞状と記念品を受け取っておられました。次女さんも立ち会われ、その後、長女さん夫婦とお孫さんも来られ、祝って下さいました。このような記念すべき日に立ち会え、人間の凄さ、梅木さんの力強さをヒシヒシと感じました。これからもお元気に、楽しい日々を過ごして頂きたいと思いました。梅木さん、本当におめでとうございます。



## 故郷訪問パート2 大井田正衛さん

今回ともの家史上初、故郷訪問2回を達成された大井田正衛さんは98歳（敬老会の長者番付→横綱）です。健康面ではご高齢のためやや不安はありましたが、ご本人がまた<宿毛>に行けるということで、大変喜ばれていましたので決行の運びとなりました。2日間の旅をレポートしたいと思います。



**1日目**…前回と同じコースで宿毛を目指しました。運転手は理事長、助手席には大井田さんが座られ、道中、目を閉じることなく宿毛へと続く道をしっかりとおられます。道の駅では、昼食としてきつねうどんと管理者のちゃんぽんをお椀一杯召し上がり「食べ過ぎた～」と休憩。腹ごしらえ

後は、前回お邪魔した「マル二」へ立ち寄りごあいさつ。またまた温かく迎え入れて下さいました。ありがとうございました。

いよいよ、一年ぶりの再会です。妹さんへのお見舞いのお花(転倒されご自宅で静養中)を渡し、ご親戚と再会を喜ばれます。ホテルへ戻り数十年前大井田さん宅に下宿されていた方と前回に続き再会…しかしお疲れになったようで途中、布団で横になられました。



その後、てんこ盛りのごちそう（夕食）をモリモリ召し上がりながら、窓から見える景色に「宿毛？宿毛？昔と違う。」どんなに時が流れても、昔の故郷の風景は大井田さんの心に焼きついて離れないようです。普段の生活では、あり得ないハードスケジュールをこなし床に就かれた1日目の夜。昔を思い出したのか寝言で、童謡「もしもしカメよ～」を歌っておられました。（普段の就寝時このようなことはありません。）



**2日目**…本日のメインスケジュールは『お墓参り』です。目的地を目指す途中、ふと「片島、大島…」と流れる景色の中の地名を口にされます。故郷の海に浮かぶ島を見て思わず口にしたといった様子で、私たちはとても感動しました。そして前回もお世話になった親戚の方のお宅に到着し、再会。ここでは、大井田さんの実のお姉

様の現在を知ることができました。関西の方でお元気にされており、なんと100歳だということです（長寿家系なのでしょう）。大井田さんはこの話を聞いて涙を流し「バンザーイ！」と声をあげられました。その後のお墓参りも、ご親戚の協力のもと無事に終えることができました。さらにご親戚の方が、1日目体調の都合で会うことができなかった妹さんに会えるよう連絡して頂いており、私たちはそちらへ向かいました。昨日渡したお花が、玄関に飾られています。今回は会えないかなと思っていただけに、再会でき本当に良かった。その時も大井田さんは涙を流し「バンザーイ!!」と喜ばれました。



この2日間、大井田さんは何を思い、何を考え故郷におられたのでしょうか。ご本人にうかがっても、今となってはわかりません。98年の人生で宿毛で過ごされた期間は、そう長くはないとお聞きしましたが、やはり故郷は特別な場所なのだと感じさせられる出来事ばかりでした。出発したその瞬間からともうの家に帰ってくるまで、ともうの家では見ることのできない表情や言動はこの紙面には書ききれないほどです。大井田さんにとって、特別な2日間であったことは間違いありません。

文責：山岡理紗



## ともの家大運動会

ともの家この道 渡部貴子

「ケガのないよう楽しんで盛り上がりましょう。どっこいしょ！」開会宣言（この道の利用者）内海剛さんの元気な声が印象的です。まずは全員でラジオ体操。この時から皆さん笑顔で、いつもは、ほとんど体を動かされない利用者さんも一生懸命に手足を動かしておられます。とても喜ばしい光景でした。白組（グループホーム）紅組（小規模多機能ホーム）。まず、職員による応援合戦です。学生服姿で登場。

場は盛り上がり、チームでの一体感を高めた後、パン食い競争・玉入れ・綱引きと白熱した戦いが続きました。利用者さん少し休憩の間は職員同士で綱引き…普段は敵対しているわけではないのですが、この時は利用者さん・家族さんの声援も加わり、「頑張れ〜！」「オーエス！」負けるかと職員も必死でした。熱い戦いも終わり…昼食はおにぎりや卵焼き等、お弁当のおかずが並び、外で食べたりと楽しんで頂きました。利用者さんをはじめ、参加して下さいました御家族の皆様ありがとうございました。職員の皆さんお疲れ様でした。また一つ楽しい思い出が増えました。



横綱のパン食い競争



職員対抗綱引き

## 運営推進会議

運営推進会議とは、「指定地域密着型サービスの運営に関する基準」において定められ、義務付けられている。利用者や利用者の家族、市町村の職員、地域住民の代表者に対し、提供しているサービスの内容や活動などを明らかにし、地域に開かれたサービスをすることでサービスの質の確保を図る。開催は、おおむね2カ月に1回で、年6回開催する。（9月職員研修、配布資料より引用）



10月15日に5事業所合同で行われた運営推進会議は、消防署員による救急救命処置の講習会が行われました。職員はもちろん、利用者さん、ご家族、地域包括支援センターの方、地域の方などたくさんの方が参加して下さいました。備えあれば憂いなし！ ということで、ご家族、職員ともに真剣に取り組みました。

文：山岡理紗(広報委員)



## お別れ欄 ～ともに過ごした時間を忘れません～



【溝辺ともの家】 喜多梅野さん 平成 24 年 6 月 19 日午後逝去。享年 93 歳  
平成 14 年 1 月 29 日 溝辺ともの家入居

※ともの家ホームページ「日々是好日」に詳しい記事が掲載されています。そちらをご覧ください。

【ともの家この道】 高岡アサコさん 平成 24 年 7 月 9 日早朝逝去。享年 86 歳  
平成 18 年 11 月 22 日 ともの家湯の山入居

大洲の田処出身。67 歳までの 20 年間松山市の料理店で仲居として勤める。姉御肌で人の面倒をみるのが大好きなため「アサ姐」と慕われていた。仲居を辞めてからは、大手町の自宅で兄さんと煙草店を開業していた。3～4 年前に兄を亡くし、その後徐々に体力が衰えてきていた。

【小規模多機能ともの家】 金繁定恵さん 平成 24 年 9 月 26 日逝去。享年 87 歳  
平成 19 年 5 月 14 日 高齢者住宅入居

城辺町出身。姿、言葉、仕草…すべてきちっとした方。誰もがそう答えるのではないでしょう。苦しく辛い病状の中、最期のそのときまでその姿勢を崩されませんでした。何事にも心を込めて真剣に取り組まれる姿は、今でも鮮明に思い出されます。

【小規模多機能ホーム第 2 ともの家】

北村美千さん 平成 24 年 7 月 16 日朝逝去。享年 101 歳

決して弱音を吐かない凛とした強さと、人を傷つけない優しさを持った方だった。機知に富んだ会話で笑いを誘い、美千さんのそばにはいつも人の輪ができていた。持ち前の好奇心と大胆な気質で、大いに人生を楽しまれた方だったと思う。

かくしゃくとしていた美千さんだったが、年齢を追うごと足腰が弱り、第二ともの家が開設してからはほとんどをともの家で過ごし、月に数回自宅へ帰る毎日になった。間もなく末期の膀胱がんが発見され、第二ともの家での日々は、緩やかな終わりを見据えたものとなった。が、美千さんは病のことなど思わせぬように、朗らかに歌い、笑い、職員をねぎらってくださいました。思わず笑ってしまうような出来事が毎日のケース記録につづられている。なぜか間違った名前を思い込んでしまっている利用者さんから、毎回「川東さん」と呼ばれても、色めき立ったりせずにはやんわりやり過ごしていた。お医者さんが「また来ます」というと「来年な！」とやりこめていた。

ご家族と話し合い、ケース会議を開いて、「最後まで美千さんらしく」生きる方向を確認してケアを進めた。できるだけ外に出て季節の移ろいを楽しみ、好まれるものを作って召し上がっていただいた。健啖家の美千さんは、最後までよく召し上がったほうだと思う。エンジェルケアを担当した看護師さんが、立派な便を見て「よく食べられていたんですね」と言われたそう。どんな歌でも知っていた美千さん、生後二か月の子供を抱いて「重い

なあ」と目を丸くし「こんにちは、赤ちゃん」とあやしてくださった。ハイビスカスの黄色い花を髪に飾りカメラを向けると、にっこりとポーズを取られた。亡くなる一週間前のことだった。

7月11日、第二ともの家一周年記念パーティを皆で祝い、16日の朝に眠るようにして旅立たれた。その10分前まですやすやと、穏やかな寝息を立てていたのが確認されていた。死の瞬間を看取らせなかったのは、誰かに迷惑をかけることを嫌う、あっさりとした美千さんらしい逝き方だったと思う。海の日であり、ちょうど祇園祭の宵山の日だった。一人一人お別れを交わし、みんなで美千さんの好きだった「われは海の子」を歌って出棺を見送った。「さびしくなったなあ」と利用者の一人が呟かれた。私が最後に聞いた美千さんの言葉は、十日前に入浴したときの「気持ちがあえなあ」という呟きであり、祇園祭のお囃子「こんこんちきちき、こんちきちき」を唱和されたのだった。親族一同から長老として敬愛されていた美千さん。お嫁さんは毎日手作りスープやお菓子を持って訪ねてこられ、遠くから息子さん夫妻やお孫さんも見えて、最後の時まで満ち足りていたのではないだろうか。今年の桜を、皆で見に行けたことが良かったと思う。4月、道後公園で咲き誇る花爛漫に囲まれて、嫣然とした笑みを浮かべるおめかしした美千さんが、今も第二ともの家のリビングで「あんたら、進歩がないなあ」と笑っているかのように、皆の毎日を見降ろしている。



## 主任 にインタビュー ～ part1 ～

前号で『管理者からのメッセージ』は一巡し、終了いたしました。今号からは、『主任にインタビュー』ということで各事業所の主任の紹介を兼ねた企画として新たにスタートいたします。

**質問1**：主任何年目ですか？      **質問2**：あなたにとって理想の主任像とは？

**質問3**：現在の事業所をどのような事業所にしていきたいですか？

**質問4**：休日の過ごし方を教えてください。      **質問5**：フリーメッセージ

ともの家この道 主任 花崎秀美

インタビュアー：篠原史彰（広報委員）

回答1：6年目

回答2：管理者の補佐、他職員とのパイプ役

回答3：生活の場として、その人らしく生活できるようなチームケアに取り組んでいきたい。

回答4：友達と買い物をする。

回答5：この道は、重度のお年寄りが多数おられますが、若手の職員たちもよく頑張っていると思います。

回答1：3年目

回答2：管理者の補佐、協力、相談相手となる、問題点や課題に気づき改善する、家族との良好な関係作りをする、職員とのコミュニケーションを大切にし、信頼される主任となる。以上の事に一步でも近づけるよう努力したいと思う。

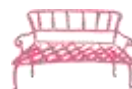
回答3：介護の質・技術を高める、ケア基準を同じにして関わり、より良いケアを実践できる職場づくりをする、みんなで支えあい温かい雰囲気を作る。

回答4：孫と遊ぶ、友達と飲みに行く、庭の手入れをしたり、ポーっとする。

回答5：スタッフが心穏やかでないと利用者が穏やかになれない。笑顔を忘れず、心身の健康を保ちましょう。

次回は小規模多機能の主任にインタビューを予定しています

## お知らせ



今年もともの家職員による『実践研究発表』を行います。

日時：11月12日(月)20時15分 発表：ともの家この道、アンジュールともの家

11月26日(月)20時15分 発表：溝辺ともの家、小規模(第1)、小規模(第2)

場所：アンジュールともの家2階

ぜひ、ご参加ください。

## ありがとうございます

ピアノ演奏、お花クラブ、人形劇、傾聴ボランティアなどの皆様ありがとうございました。バザーへの余剰品をお持ちいただいた皆様、その他ご協力いただいたみなさまありがとうございました。



## 編集後記

「理想と現実のギャップ」皆さんはどう考えますか？ギャップがあればあるほど苦しいものです。理想を低くしようか…現実には理想通りいかないのが常…いろいろ悩みます。理想に向かって歩き出す前に、目の前にある現実の中から、ギャップを埋められない理由を探して立ち止まってみたり…私は時々そういう気持ちになります。

しかし最近、ひとりでその道を歩く必要はないと思うことができ、少し楽になりました。皆さんはどのような方法で「理想と現実のギャップ」を解消していますか？または、解消しようとしていますか？ぜひ、教えてください。山岡(溝)